社会倫理学研究会

【2024度の活動記録】

第１回：2024/7/29
第２回：2024/8/21
第３回：2024/9/24
第４回：2024/10/23
第５回：2024/12/16
第６回：2025/2/19

【メンバー】

代表 堀内智吉(文D1)
堀祐輔(社D2)
久保田はな(文M1)
成子栞里(文M1)

【研究会の目的】

本研究会の目的は、社会学及び倫理学の抱える学問的な課題を、相互にカバーすることで解消しつつ、現代社会の抱える諸問題に対して、創発的な視点を提供することにある。社会学は、社会と人の関わりを実証的に追及する学問であるが、方法論の多様さゆえに学問的正確性を欠いていると批判されている。他方で倫理学は、「幸福とは何か」や「我々はどうすべきか」という命題に対する概念的・理論的構築を行ってきた学問であるが、抽象論に寄るせいで現実を生きる我々の複雑な道徳的判断を正当化できる材料を十分に提示できない。しかしこれら両者の短所は、両者の長所によって補うことができるだろう。本研究会は、**現代社会の抱える諸問題を、社会学的・倫理学的知見から分析することによって、より現実的な次元での解決策を提示していく。**

【2024年度の研究内容】

昨年度の研究テーマは「ウェルビーイング（幸福）」であった。多様性が重視される社会へと変移する中で、その変化に合わせたウェルビーイングの実現は世界的な課題だと言えるだろう。倫理学と社会学の知見を用いて、現代のウェルビーイングに関わる問題を、時代・文化ごとの変遷を捉えつつ調査した。

【活動形態】

・大学施設での対面開催／Zoomでのオンライン開催
・担当者が自身の関心をもとに研究発表を行い、他のメンバーからフィードバックをもらう

【研究成果】

・堀内智吉「デュルケム道徳論の倫理学的意義―義務と善の調和を目指して 」、関西倫理学会（口頭発表）［査読あり］

・堀祐輔「戦後日本における「生活者」のニーズ分析−国会会議録の計量テキスト分析−」、福祉社会学会第22回大会（口頭発表）［査読あり］